

## 新型コロナウイルス感染症に関して国立感染症研究所所長の見解とする一部SNSにおける投稿について

印刷

PUBLISHED: 2023年10月30日

2023年10月30日  
国立感染症研究所  
所長 脇田 隆字

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、ウイルスゲノムの変異を繰り返しながら世界中に広がっています。日本国内でも数次に渡る流行を経験し、感染管理や行動自粛、ワクチンなど様々な対策が実施されてきました。今年5月8日に感染症法上5類に指定されましたが、現在も市民の皆様をはじめ、医療従事者や高リスク者のケア従事者、自治体など様々な人々による感染対策が行われています。

10月28日に私たちは感染研の業務やサイエンスの楽しさを知っていただくため、戸山庁舎の一般公開を実施しました。私は4年ぶりに来場者と直接お話しする機会を得ました。私にとって生の声を伺うことは大変貴重であり、500人以上の来場者の方々とお話をさせていただくことができました。

その中で、私の意図とは異なる内容が、私の言葉としてSNS等で広まることとなってしまったため、ここで改めて見解を述べさせていただきます。

国立感染症研究所（感染研）の脇田隆字所長は30日、新型コロナウイルスのワクチンを巡り、SNS（ネット交流サービス）上に自身の意図とは異なる発言内容が拡散されているとして、自身の見解を感染研のホームページ（HP）上に掲載した。感染研がSNS上のやりとりについて見解を示すのは異例。

脇田所長は30日付の見解で、新型コロナウイルスの重症化予防効果について「多くの適切にデザイン（設計）された研究に基づいて実証されており、学術的に確立された知見」と指摘した。「日本国内で実施された複数の研究でも確認されている」と説明し、学術論文や出典を示した。

また、2020年以降に発生した国内の超過死亡については「『新型コロナウイルスのワクチン接種が原因で超過死亡が発生した』と考えられる科学的根拠は、現時点において確認

されていない」と説明した。

脇田所長は見解を公表した理由について「私の意図とは異なる内容が、私の言葉として SNS 等で広まることとなってしまったため」だとした。感染研が 28 日に庁舎を一般公開した直後から、SNS 上では「脇田所長と直接話し、『ワクチンの重症化予防を示す国内のデータはない』『超過死亡の原因がワクチンである可能性は否定できない』との意見で一致した」との情報が広がっていた。

感染研は 21 年 8 月にも、新型コロナを巡って、感染研の HP の記載を一部切り取り、科学的な事実とは異なる情報が広まっていることに対して、「科学を踏まえた健全な社会の議論をゆがめてしまう」と懸念を示したことがある。【金秀蓮】